

「第1回国有林モニター勉強会」を開催

四万十森林管理署管内の国有林において、国有林モニター勉強会を開催しました。

【詳細は2頁】



高性能林業機械プロセッサ作業状況の見学

「第一回国有林モニター勉強会」を開催

〈企画調整課〉



七月一日、高知県中土佐町にある四万十森林管理署管内の国有林において、平成二五年度第一回国有林モニター勉強会を開催しました。

当日は好天に恵まれ、四国四県から国有林モニターの方八名が参加されました。

開会にあたり井上業務管

理官から「実際に森林・林業の状況を見て感じていた

モニターの方々は、複層林の特徴についての説明を行いました。



モニター勉強会開会式

その後、間伐事業実施箇所へ移動し、森林整備事業の概要、間伐の重要性等の説明を行い、高性能林業機械のプロセッサが実際に稼働しているところを見学しました。

今回の勉強会に参加したモニターの方々は、複層林の特徴についての説明を行いました。



各地のたより



奇跡の出産立ち会い!?

「土壤生物がくれた感動」

〈ふれあい推進センター〉

まず、前回学習した「森林のはたらき」の復習を兼ね、「治山模型」を使った「水の浸透実験」を行いました。

生徒は、二班に分かれ、

小筑紫小学校五年生一二名を対象に、「治山模型」を使った「水の浸透実験」と「土壤にすむ生物」の出前授業を行いました。

生徒は、二班に分かれ、水の流れ方や土壤を通って出てくる水の濁り具合の違いなどを観察しました。

モニターの方々は、複層林の特徴についての説明を行いました。

森林へ誘導していく森林整備や、人工林の間伐事業箇所における高性能林業機械

実際に国有林に足を運んだ

森林へ誘導していく森林整備や、人工林の間伐事業箇所における高性能林業機械

実際に国有林に足を運んだ

森林へ誘導していく森林整備や、人工林の間伐事業箇所における高性能林業機械

実際に国有林に足を運んだ

所において、複層林造成箇

周辺国有林の特徴の説明

行いました。



どんなに雨を降らせても
変わらない「森林のある
山」に対し、「森林のない
山」では家を巻き込みなが
ら土砂がどんどん流された
り、いつまでも濁った水が
出てくる」と驚き、「森
林のはたらき」を実感して
いました。

でしたが、「一出でくる、出でくる」と子どもたちの驚嘆の声に、あわてて電子顕微鏡の映像をスクリーンに投影。すると、ひっくり返ったダンゴムシのお腹で白い物体がモゾモゾ。

お母さんダンゴムシは、お腹を曲げたり伸ばしたり、一生懸命赤ちやんダン

ゴムシ、もうすぐ子どもが産まれるよ。」との声。この時は、「もうすぐ」がまさか「今」とは思いません

の通り一ヶ月前に埋設しておいた「野菜」「枯葉」等の観察を終え、校庭で採取した土壤生物を顕微鏡で観察していくと、「このダ

続いての「土壤にすむ生物」の学習では思わず奇跡が舞い降りました。いつも

「お願ひ、あと五分」と熱い眼差し。このような瞬間に立ち会うことは滅多にないことなので、出産を見守ることにしました。

このライブ出産で、昆虫も苦労して子どもを産むこと、ダンゴムシの赤ちゃんは、産まれた瞬間から動き

お腹には二〇匹ほどの赤ちゃんがいますが、一匹産むのに五分ほどもかかります。

張れ！、ミサコ（なぜミサコ）
コ？）」「赤ちゃん、もう
ちょっと。」と食い入る上
うに画面に向かって応援し
ていました。ダービームンの

災害を防ぐために

～最先端技術と森林の力～ 「ふれあい推進センター」

七月一日 高知県四万十市立後川中学校全校生徒一九名を対象に森林教室を行いました。

同校は、本年度防災指定校となつており、一日から二日間にわたり防災について学ぶと共に非常事態に備えた宿泊訓練をすることから、学校から「今の山」

災害を防ぐために ～最先端技術と森林の力～

ふれあい推進センター

後日届いた感想文では、「ダンゴムシの出産」に感動した様子を一生懸命伝えてくれていました。

回ること、そして何より

えでほしいと依頼がありました。

「今の山」は航空局のA
R S A（航空路監視レー
ダー）や航空自衛隊の駐屯
地が設置されており、空の
災害を守る最先端技術の集
まる山です。

まず、ハイテク防災に
貢献する「今の山」を紹

において「森林の持つ防災機能」や「山川海のつながり」を子どもたちに伝

— 3 —

介し、縁の下の力持ち「森林」の持つ防災力や「山川海のつながり」について林内を散策しながら説明しました。

「今の山」の頂上から登

山道を下りながら一時間ほど

どの体験学習でしたが、ア

スファルトを歩く感覚との

違い、炎天下の外と違って

涼しい林内など防災だけで

ない「森林の働き」も実感

していました。

この後は、高知県土佐清

水市の竜串海岸で「海の学

習」とのことでしたが、美

しい海を見て、「今の山」

で学習した「山川海のつな

がり」について再確認して

くれたことでしょう。

かいろいろな物に使われ

ていること。」など学習し

二校で木工クラフト教室

（ふれあい推進センター）

ました。

その後、土佐清水市立中

浜小学校の一年生から四年

生までは、事前に各パーツ

に加工したヤマザクラの小

枝などを使って『コロコロ

ゲーム』及び『熊のスト

ラップ』等を作製しまし

た。

また、同校の五、六年生

小学校で本年度三回目の四

年生二五名を対象に木工

クラフト教室をそれぞれ

行いました。

両校とも木工クラフトに

入る前に、「木材の特徴」

と題して、「大昔から木は

生活の道具として使われて

きたこと。」、「木は方向に

よって強さに違いがあるこ

と。」、「木はその特徴を生

かいろいろな物に使われ

ていること。」など学習し

木工クラフト教室 (松野西小学校)

と松野町立松野西小学校の

四年生は、自分の想像力を

生かし、鋸やナイフを使い

ヤマザクラの小枝等を加工

して世界で一つだけの作品

を作製しました。

大半の子どもは、鋸をあ

まり使用した事が無く、最

初は緊張していましたが、



知つてびつくり、森林 や土壤生物のはたらき （ふれあい推進センター）

立清水小学校五年生五六名

を対象に「森林のはたらき」

と「土壤にすむ生物」の出

を対象に「森林のはたらき」

と「土壤にすむ生物」の出

を対象に「森林のはたらき」

と「土壤にすむ生物」の出

を対象に「森林のはたらき」

と「土壤にすむ生物」の出

鋸を引く時の力加減などを教えるとすぐに覚え、次々と太さが違う小枝を一定の幅に切り揃えていました。

どの子も真剣な表情で取り組んでいました。子どもたちは完成した作品を見せ合つて、満足そうな表情を浮かべていたのが印象的でした。

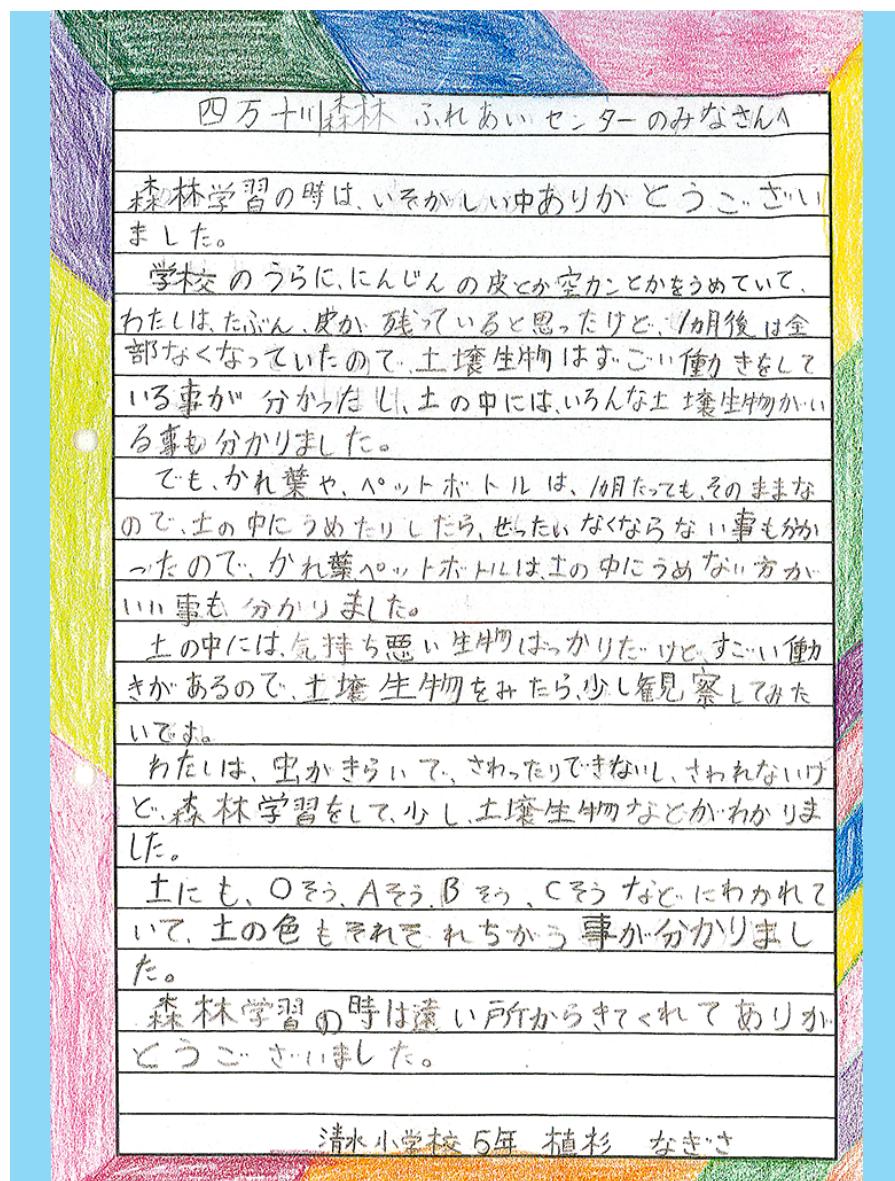
間半という短時間で子どもたち一人ひとりが十分に観察や実習ができるか不安で言したり、きびきびと行動してくれたので、スムーズ

に授業を進めることができました。

まずは、「森林のはたらき」についての講義を行いました。

「川」など漠然としたイメージしかなかった子どもたちも、「森林のはたらき」の講義後は、地震温暖化や土砂災害を防ぐ働きがあることを探してい

る。その後の土壤生物の採取、観察で



土壤生物を探している児童

能力を見直したようです。一ヶ月ほど前に埋めておいた、「野菜」「枯葉」「ペットリボトル」の観察では、先生の「すみませーん、草刈の時に誤つて切つてしまいました。」の声と共に真っ二つに折れた「野菜」の看板を目にし、一抹の不安を感じました。その不安は的

に見つけられました。中、「野菜」の場所は見つかりませんでした。「野菜」は土に還るため当然場所は確定できず、目印として埋めた空き缶は掘れども

が生えてる」「ヌルヌルする」と楽しそうに大騒ぎしていました。

あつて多種多様な虫たちに出会うことができました。